

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第451号 発行日 平成27年6月30日

第57回日本小児神経学会学術集会に参加して

小児科 医師 喜多 俊二



平成27年5月28日から5月30日に第57回小児神経学会学術集会（大阪大学主催）が開催されました。当都立府中療育センターからは口頭、ポスターあわせて4つの演題発表があり、センター小児科の医師が、私を含めて計8名参加いたしました。口頭演題としてはサテライトセッション「第9回子どもの眠りの研究会」にて福水小児科部長が発表されました。夜遅くのイブニングセッションであったにもかかわらず盛況のうちに終了

しました。ポスター演題としては、田沼医長が「抗酸化物質としてのメラトニン」、長澤医長が「重症心身障害におけるボツリヌス毒素療法の治療戦略～標的筋の検討とチーム医療の重要性～」、大越医長が「重症心身障害者のメラトニンと臨床症状との関係」と題してそれぞれ発表されていました。いずれも臨床現場から一步踏み込んだアカデミックな内容でした。くしくも3演題が並んで掲示されており、全国学会にて当センターの存在を十分にアピールできたと思います。来年はぜひ私も当センターで日々の臨床の中から学んだことを形にして演題発表者として全国学術集会に臨みたい所存です。

私はというと、重症心身障害児・者医療関連の新たな知見や臨床的研究の成果を学んだほか、5年後の新センター設立に向けて、小児神経学における一つの分野である小児発達障害に関する知識を新たにするためにいくつかのセミナーに参加し、また発達障害関連のポスター、口演発表を見てまいりました。今後も増加していくであろう発達障害の児童たちに対して、いかにして地域でサポートできる体制を作り上げていくかを、全国の多くの小児神経科医が重要な課題として認識していることが実感できました。そして重症心身障害児・者医療とともに私自身の将来のライフワークの一つとしてこの領域で今後何ができるのだろうか、と考えさせられ、また新センターの一員として果たすべき役割を再認識した次第です。

また、今回は昨年逝去された「福山型筋ジストロフィー」の発見者である故・福山幸夫先生のメモリアル追悼記念講演が厳かな雰囲気の中行われ、筋疾患領域専門の先生方だけでなく、多くの小児神経科医が傾聴していました。故・福山先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

このようにして、3日間にわたる小児神経学会学術集会は終了しました。この学会で学んだ知識を明日の診療にいかし、その上で日々の臨床経験の中から新たな研究テーマを見つけ是非とも全国に発信したいと心を新たにすよい機会でした。そして当センターの日本の小児神経学領域における位置づけをさらに高められれば、と思っています。

最後に8名もの医師が留守にしている間、当都立府中療育センターの利用者様の安全と健康状態を守ってくださった先生方にこの場を持って感謝の意をお伝えしたいと思います。



歯ブラシを投げて褒められる？～春のミニ運動会～

1-A 保育士 林 博之

今年も1-A病棟で春のミニ運動会を行いました。

競技は風船送りリレー、千本釣り、歯ブラシ投げゲームです。風船送りリレーでは、一つの風船を隣の人に手渡ししていく競技です。早くゴールのカゴに入れたチームの勝ちとなります。3回戦行いAチームが勝利しました。千本釣りでは紐を引いて景品を釣り上げますが、欲しい景品を釣り上げることができた方などは大喜びしていました。

歯ブラシ投げゲームは利用者さんの生活の一場面がヒントとなり、考案されたゲームです。歯ブラシ（紙で作ったもの）を点数のついた的に当てて合計点を競うゲームです。一般的に歯ブラシを投げたりすると注意を受けますが、この日ばかりは「ナイスコントロール」「力強いね」「今の投げ方は歯ブラシ投げの基本通りの投げ方ですな」など歯ブラシを投げれば投げるほど褒められるとあって皆さん思い切って歯ブラシを投げていました。全国に沢山の施設がありますが、歯ブラシを投げて褒められるのは府中療育センターの1-A病棟だけでしょうね。



リコーダー演奏会

2-B 保育士 木村 和子

6月17日、2-B病棟においてボランティアさんによるリコーダー演奏会が行われました。今回の演奏会については、病棟職員のお子さんがリコーダーを習っていて、その先生を中心とした方々でリコーダー演奏の活動をされている事を聞き、是非2-B病棟で演奏会をして頂けないか伺ったところ、二つ返事で了解をいただき演奏会の運びとなりました。リコーダーは、一昔前には小学校の音楽に弾いたことのある馴染みある身近な楽器でもあり、みんなで演奏会をこころ待ちにしていました。

当日は、病棟フロアの簡易舞台を中心に、病棟観客は車椅子で集まりワクワクした様子で演奏会の始まりを待っていました。開演時間になり入場された総勢10名の演奏者を取り出した楽器には、大小様々なリコーダーがありました。その中には大きいというより、太くて長いリコーダーもあり、いろいろな種類があることに驚きました。

いよいよ演奏が始まるとその音色に聞き入る人、声を上げる人、身体を揺らしている人、リズムを取りながら手を叩いている人と楽しまれている様子が見られました。利用者の方の好みの曲が演奏された時は、一緒に歌い楽しみ会場は大いに盛り上がりました。

演奏のお礼にリコーダー隊の方々へ、感謝の気持ちを込めて手作りしたしおりをプレゼントすると、反対にお礼を言って頂きました。音楽を身体で感じ聴けた感動の一日でした。



春の企画

指導科 田中 栄美



「利用者の方がモデルとして出演するファッションショーをしてみたい！」との思いから、春の企画を実施しました。内容は、「利用者の方がおしゃれな装いをして、ステージに上がってインタビューされたり写真撮影をして、色々な人との交流を楽しむ」というものです。

では、アーリーサマーコレクションの楽しみ方を説明します。まずは、衣装ルームへどうぞ。男性の方も女性の方も数ある衣装の中からお気に入りの一着を選び、帽子、ヘアウイッグ、サングラス、アクセサリで大変身。女性の方は、頬紅やリップでつややかに。皆さんそれぞれ、一番自分らしいコーディネートを楽しみます。写真撮影コーナーではインスタントカメラチェキの前で「はい、ポーズ！」カメラマンの声

かけで、今日一番の笑顔をみせます。ステージでは、インタビューされ自己PRします。登場すると「すてき!」「カッコイイ〜」「可愛い・・・」と大きな拍手や歓声があがり、瞳もキラキラ輝いて、利用者それぞれのスタイルに合わせた演出を楽しむことができました。チェキで撮影した写真も自己PRコメントも好評でした。

今回、素敵なドレスは、外部の施設からお借りしました。



東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修 第4期がスタートしました

看護担当科長 服部 俊夫

5月21日(木)に東京都健康プラザハイジアにて、東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修第4期の開講式を行いました。

本研修は、東京都が平成21年度から立ち上げ、都内の重症心身障害分野に携わる看護師のキャリア開発を支援しています。

「重症心身障害の看護分野における専門的な知識・技術を理論的に探究し、質の高い看護実践活動と指導的役割を果たす人材を育成する」ことを目的に2年間で154時間の研修を受講します。第3期までに113名の看護師が研修を修了し、第4期生は25名が受講します。

開講式では、前田福祉保健局技監より「看護職員としての資質向上と共に、障害者福祉施策の推進に大きく寄与する事を期待している」との挨拶があり、研修生は、受講に対する意義を再認識し身の引き締まる思いだったと感想を述べていました。

また、当センターの柳瀬院長、島田療育センターの有松療育部顧問からも、研修生への期待と激励のお言葉をいただきました。

これからの2年間、初心を忘れることなく研修に取り組み、大きな成果を上げることを期待しています。



通所遠足

通所 癸生川 傳恵

5月21（木）22日（金）の二日間に分けて、通所の遠足に行きました。

今年向かった先は「府中郷土の森」。センターに集合してからバスに乗り込む方、それぞれのお家へバスが迎えに行き、乗り合わせて向かう方など、現地に皆が集まったのは10時30分。集合写真を撮ったあとはお昼集合まで自由散策。



大きな池まで足を伸ばす方、滝をバックに写真を撮っている方、お茶屋さんでアイスを堪能している方、木陰の中をおしゃべりしながら歩いている方・・・それぞれに楽しみながらあっという間に時間が過ぎていきました。

二日間とも、とても良い天気にも恵まれたお陰で、自然を感じ、新緑が心地よい公園内を楽しむことができました。みんなとの思い出のページがまた増えました♪



春の総合防災訓練を実施しました！

事務室 山口 裕輔

5月26日（火）春の総合防災訓練が行われました。

これは夜間に火災が起こった想定での訓練で、1-A病棟を舞台に府中消防署栄町出張所長（以下「所長」という。）及び消防司令補の御指導のもと実施しました。訓練では、マスクをしての職員間の意思疎通や全体を見渡したリーダーの指示出しの難しさが浮き彫りになりましたが、所長からの講評では、全体的に良い出来であり、100点満点中85点という高評価をいただきました。

訓練後は、防災教育として実際に消火栓を使った放水訓練を行いました。放水するホースの重さや放水の圧力を実際に体験することで防災の意識がより身近になったように思えました。放水訓練に参加した職員からは「消火栓の場所すらもあまり日常では意識していませんでしたが、実際に使うことができ大変良い経験になりました。」という意見もありました。

最後に所長から講評と講話をいただき訓練は終了しました。所長の講話の中で一番印象的だったのは、火災現場に即した初期消火の重要性とともに、自分自身を守ることの重要性でした。職員一人が負傷することで、その職員が動けなくなる、さらにその職員を助けるために人手がいる。そのことにより、利用者4、5名の命が危険に晒されてしまう可能性がある、ということです。

今回の総合防災訓練で得た教訓と知識を大切に、今後も防災担当者として、センター職員全体の防災への意識をより一層高められるよう努めていこうと思います。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>